

調査結果の概要

I 発育状態

1 平均体格

平成26年度の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校における幼児、児童及び生徒の身長、体重、座高の平均を年齢別、男女別にみると次のとおりである。

(1) 身長 (表1, 図1, 図2)

男子の身長(平均値。以下同じ)は、5歳、8歳、11歳、13歳及び15歳の各年齢で前年度の同年齢よりも増加している。各年齢間の身長差が最も大きいのは、11歳～12歳の7.3cmとなっている。

女子の身長は、8歳、10歳及び11歳の各年齢で前年度の同年齢よりも増加している。各年齢間の身長差が最も大きいのは10歳～11歳の7.1cmとなっている。

表1 男女別年齢別 身長(平均値)

(単位: cm)

男女・年度		幼稚園	小学校						中学校			高等学校		
		5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
男子	26年度	110.3	116.1	121.9	127.6	132.8	138.1	144.4	151.7	158.8	164.0	<u>168.1</u>	168.4	169.8
	25年度	110.0	116.1	122.0	127.4	133.3	138.1	144.0	152.1	158.6	164.6	167.0	168.9	169.8
	差	0.3	0.0	△ 0.1	0.2	△ 0.5	0.0	0.4	△ 0.4	0.2	△ 0.6	1.1	△ 0.5	0.0
女子	26年度	109.0	114.9	120.6	126.9	132.7	139.4	146.5	151.1	154.0	155.4	156.4	156.8	157.6
	25年度	109.1	114.9	121.2	126.7	133.0	138.9	146.1	151.4	154.3	156.0	156.7	157.2	157.6
	差	△ 0.1	0.0	△ 0.6	0.2	△ 0.3	0.5	0.4	△ 0.3	△ 0.3	△ 0.6	△ 0.3	△ 0.4	0.0

(注) 下線部は、調査実施以来の最高値を示す。

図1 年齢別身長(平均値)の推移 男子

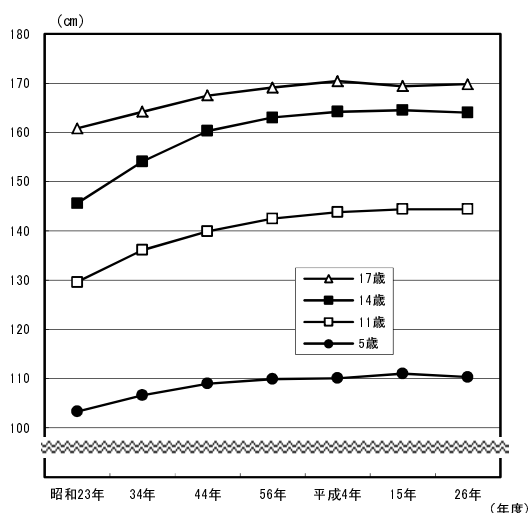
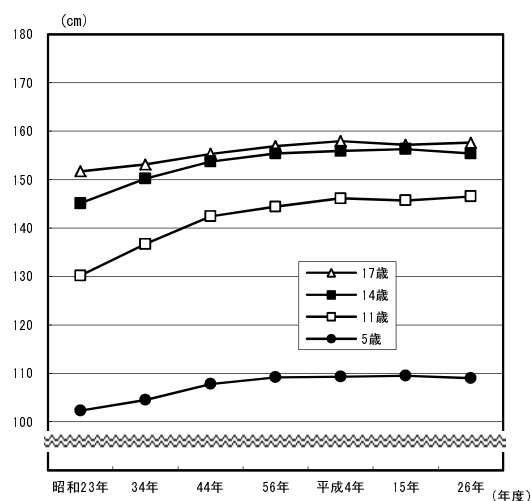


図2 年齢別身長(平均値)の推移 女子



(2) 体重 (表2, 図3, 図4)

男子の体重(平均値。以下同じ)は、6歳、7歳、10歳、15歳、16歳及び17歳の各年齢で前年度の同年齢より増加している。各年齢間の体重差が最も大きいのは、11歳～12歳の5.6kgとなっている。

女子の体重は、8歳、10歳、11歳及び14歳の各年齢で前年度の同年齢よりも増加している。各年齢間の体重差が最も大きいのは、10歳～11歳の5.9kgとなっている。

表2 男女別年齢別 体重(平均値)

(単位: kg)

男女・年度		幼稚園	小学校						中学校			高等学校		
		5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
男子	26年度	18.8	21.4	23.8	26.9	29.7	33.7	37.6	43.2	48.1	53.4	58.8	60.5	62.6
	25年度	18.8	21.1	23.7	26.9	30.0	33.2	37.7	43.5	48.3	53.9	58.2	59.7	62.3
	差	0.0	0.3	0.1	0.0	△0.3	0.5	△0.1	△0.3	△0.2	△0.5	0.6	0.8	0.3
女子	26年度	18.3	20.5	23.3	26.2	29.5	33.6	39.5	43.1	46.6	49.5	50.2	52.5	52.7
	25年度	18.5	20.6	23.3	26.0	30.1	33.1	38.4	43.8	46.8	49.4	51.6	52.5	52.7
	差	△0.2	△0.1	0.0	0.2	△0.6	0.5	1.1	△0.7	△0.2	0.1	△1.4	0.0	0.0

図3 年齢別体重(平均値)の推移 男子

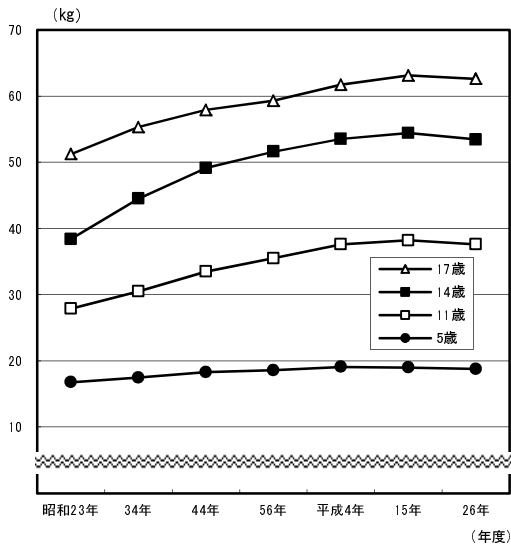
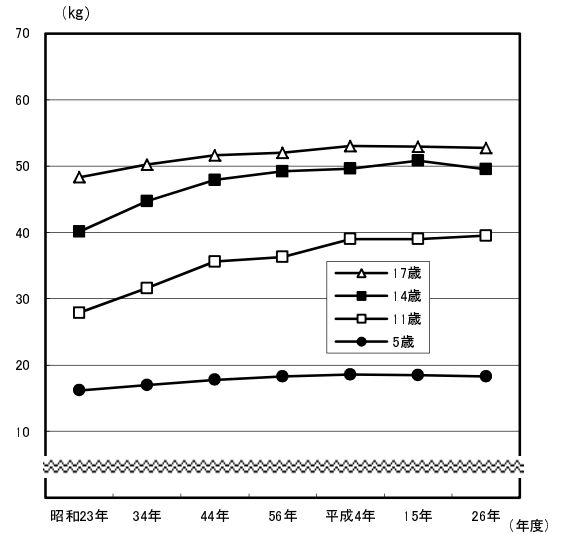


図4 年齢別体重(平均値)の推移 女子



(3) 座高 (表3, 図5, 図6)

男子の座高(平均値。以下同じ)は、8歳、10歳、11歳、12歳及び15歳の各年齢で前年度の同年齢より増加している。各年齢間の座高差が最も大きいのは、11歳～12歳の3.7cmとなっている。

女子の座高は、6歳、10歳、11歳、16歳及び17歳の各年齢で前年度の同年齢よりも増加している。各年齢間の座高差が最も大きいのは、10歳～11歳の3.7cmとなっている。

表3 男女別年齢別 座高(平均値)

(単位: cm)

男女・年度		幼稚園	小学校						中学校			高等学校		
		5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
男子	26年度	61.6	64.6	67.4	70.1	72.4	74.8	77.4	81.1	84.5	87.6	90.3	90.7	91.7
	25年度	61.7	64.6	67.5	70.0	72.7	74.6	77.3	80.9	84.5	87.9	89.9	91.1	91.7
	差	△ 0.1	0.0	△ 0.1	0.1	△ 0.3	0.2	0.1	0.2	0.0	△ 0.3	0.4	△ 0.4	0.0
女子	26年度	61.1	64.1	66.9	69.7	72.5	75.7	79.4	82.1	83.7	84.6	85.4	85.6	85.9
	25年度	61.3	64.0	67.2	69.7	72.8	75.3	78.9	82.1	83.8	84.8	85.6	85.5	85.7
	差	△ 0.2	0.1	△ 0.3	0.0	△ 0.3	0.4	0.5	0.0	△ 0.1	△ 0.2	△ 0.2	0.1	0.2

(注) 下線部は、調査実施以来の最高値を示す。

図5 年齢別座高(平均値)の推移 男子

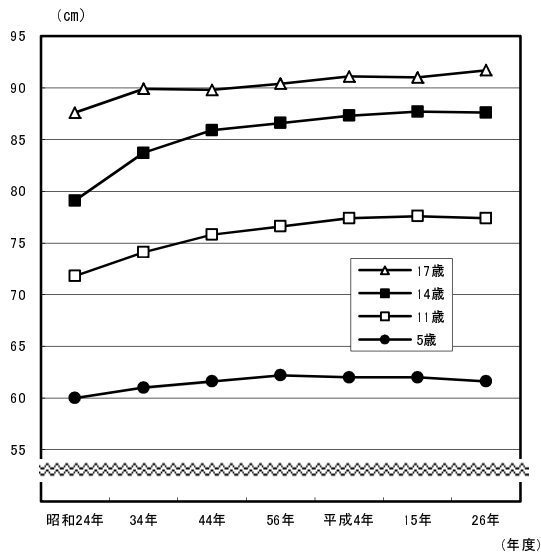
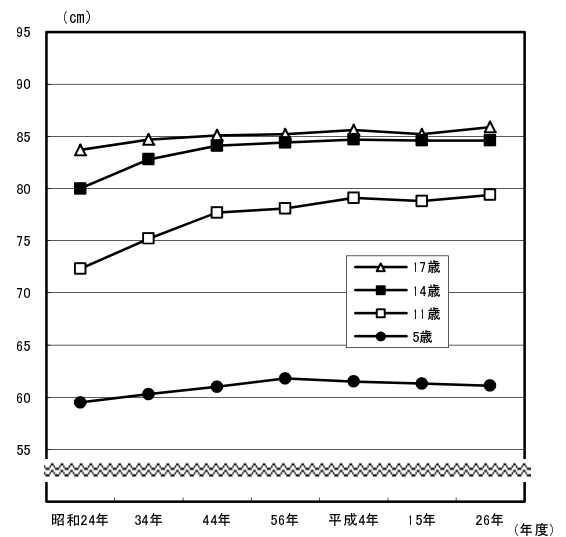


図6 年齢別座高(平均値)の推移 女子



2 親世代の体格との比較 (表4)

平成26年度と親の世代である30年前の昭和59年度の体格を比較してみると、男子の5歳の体重、男子の7歳の座高、女子の13歳の身長で同水準であるが、男子の16歳の身長、女子の5歳、6歳、14歳及び15歳の身長、女子の5歳、15歳及び16歳の体重、男子の5歳及び6歳の座高、女子の5歳、6歳及び7歳の座高を除いた、身長、体重、座高のすべてにおいて平成26年度の方が上回っている。

男子では、最も親世代と差があるのは12歳で、身長は2.4cm高く、体重は2.1kg重く、座高は1.2cm高くなっている。

女子では、最も親世代と差があるのは11歳で、身長は1.6cm高く、体重は2.0kg重く、座高は1.1cm高くなっている。

表4 親世代の体格との比較

男女・校種・年齢			身長 (cm)			体重 (kg)			座高 (cm)		
			平成	昭和	差	平成	昭和	差	平成	昭和	差
			26年度	59年度		26年度	59年度		26年度	59年度	
男 子	幼稚園	5歳	110.3	110.2	0.1	18.8	18.8	0.0	61.6	62.4	△ 0.8
		6歳	116.1	115.9	0.2	21.4	20.7	0.7	64.6	64.9	△ 0.3
	小学校	7歳	121.9	121.2	0.7	23.8	23.2	0.6	67.4	67.4	0.0
		8歳	127.6	126.8	0.8	26.9	25.7	1.2	70.1	69.7	0.4
		9歳	132.8	131.7	1.1	29.7	28.9	0.8	72.4	72.3	0.1
		10歳	138.1	137.6	0.5	33.7	32.7	1.0	74.8	74.6	0.2
		11歳	144.4	142.7	1.7	37.6	35.7	1.9	77.4	76.7	0.7
	中学校	12歳	151.7	149.3	2.4	43.2	41.1	2.1	81.1	79.9	1.2
		13歳	158.8	157.2	1.6	48.1	46.9	1.2	84.5	83.5	1.0
		14歳	164.0	163.2	0.8	53.4	52.1	1.3	87.6	86.8	0.8
	高等学校	15歳	168.1	167.0	1.1	58.8	57.2	1.6	90.3	89.4	0.9
		16歳	168.4	168.7	△ 0.3	60.5	58.6	1.9	90.7	90.2	0.5
		17歳	169.8	169.6	0.2	62.6	61.1	1.5	91.7	90.9	0.8
女 子	幼稚園	5歳	109.0	109.4	△ 0.4	18.3	18.5	△ 0.2	61.1	62.0	△ 0.9
		6歳	114.9	115.0	△ 0.1	20.5	20.4	0.1	64.1	64.7	△ 0.6
	小学校	7歳	120.6	120.5	0.1	23.3	22.8	0.5	66.9	67.1	△ 0.2
		8歳	126.9	126.0	0.9	26.2	25.6	0.6	69.7	69.5	0.2
		9歳	132.7	131.5	1.2	29.5	28.7	0.8	72.5	72.1	0.4
		10歳	139.4	138.0	1.4	33.6	32.4	1.2	75.7	75.0	0.7
		11歳	146.5	144.9	1.6	39.5	37.5	2.0	79.4	78.3	1.1
	中学校	12歳	151.1	150.4	0.7	43.1	42.6	0.5	82.1	81.6	0.5
		13歳	154.0	154.0	0.0	46.6	46.5	0.1	83.7	83.4	0.3
		14歳	155.4	155.9	△ 0.5	49.5	49.1	0.4	84.6	84.3	0.3
	高等学校	15歳	156.4	156.6	△ 0.2	50.2	51.0	△ 0.8	85.4	85.3	0.1
		16歳	156.8	156.7	0.1	52.5	52.6	△ 0.1	85.6	85.1	0.5
		17歳	157.6	157.2	0.4	52.7	52.1	0.6	85.9	85.1	0.8

3 肥満傾向児の出現率 (表5)

平成26年度の肥満傾向児の出現率は、男子では17歳が最も高く、5歳が最も低い。女子は、11歳が最も高く、5歳が最も低い。

14歳～17歳について、男子は前年度を上回っているのに対して、女子は前年度を下回っている。

表5 年齢別 肥満傾向児の出現率 (単位：%)

校種・年齢		肥満傾向児の出現率			
		男子		女子	
		26年度	25年度	26年度	25年度
幼稚園	5歳	4.22	3.02	2.16	4.00
小学校	6歳	5.17	3.86	3.18	4.13
	7歳	5.03	4.02	5.75	4.39
	8歳	8.36	7.03	6.10	4.91
	9歳	8.32	7.50	6.84	9.83
	10歳	10.06	8.23	8.11	7.91
	11歳	7.77	8.78	12.97	6.88
中学校	12歳	9.00	8.80	7.67	7.03
	13歳	7.73	8.89	6.97	6.58
	14歳	8.58	8.17	6.78	7.92
高等学校	15歳	10.15	9.37	5.24	8.70
	16歳	11.59	6.99	5.76	7.02
	17歳	12.29	9.94	5.64	8.43

(注) 肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。以下の各表において同じ。

算式は、次のとおりである。以下の各表において同じ。

$$\text{肥満度} = (\text{実測体重} - \text{身長別標準体重}) / \text{身長別標準体重} \times 100 (\%)$$

身長別標準体重は、次表の身長別標準体重を求める係数表のa, bと実測身長により求める。

$$\text{身長別標準体重 (キログラム)} = a \times \text{実測身長 (センチメートル)} - b$$

身長別標準体重を求める係数表

年齢・係数	男子		女子	
	a	b	a	b
5歳	0.386	23.699	0.377	22.750
6歳	0.461	32.382	0.458	32.079
7歳	0.513	38.878	0.508	38.367
8歳	0.592	48.804	0.561	45.006
9歳	0.687	61.390	0.652	56.992
10歳	0.752	70.461	0.730	68.091
11歳	0.782	75.106	0.803	78.846
12歳	0.783	75.642	0.796	76.934
13歳	0.815	81.348	0.655	54.234
14歳	0.832	83.695	0.594	43.264
15歳	0.766	70.989	0.560	37.002
16歳	0.656	51.822	0.578	39.057
17歳	0.672	53.642	0.598	42.339

出典：公益財団法人日本学校保健会『児童生徒の健康診断マニュアル(改訂版)』平成18年

4 痩身傾向児の出現率 (表6)

平成26年度の痩身傾向児の出現率は、男子では11歳が最も高く、7歳が最も低い。

女子は、13歳が最も高く、7歳が最も低い。

男子は13歳～17歳について、前年度を上回っているのに対して、女子は14歳～16歳について、前年度を下回っている。

表6 年齢別痩身傾向児の出現率

(単位：%)

校種・年齢		痩身傾向児の出現率			
		男子		女子	
		26年度	25年度	26年度	25年度
幼稚園	5歳	0.55	-	0.91	0.75
小学校	6歳	-	0.22	0.84	0.23
	7歳	0.44	0.20	0.53	1.05
	8歳	0.46	1.00	1.22	0.79
	9歳	2.01	2.04	1.80	0.98
	10歳	1.32	2.38	2.12	2.18
	11歳	3.65	1.83	3.38	2.12
中学校	12歳	1.14	3.28	4.05	2.13
	13歳	1.89	0.40	4.09	2.18
	14歳	1.67	1.51	1.62	2.66
高等学校	15歳	2.06	1.58	2.08	3.68
	16歳	2.62	0.48	1.74	2.33
	17歳	2.90	1.51	1.17	0.99

(注) 痩身傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が-20%以下の者である。以下の各表において同じ。

II 健康状態

1 主な疾病・異常の被患率 (表7)

平成26年度の定期健康診断における幼児、児童及び生徒の各疾病・異常の被患率は、いずれの学校段階においても「むし歯(う歯)」の者(処置完了者を含む。以下同じ。)が最も高い率になっている。幼稚園では次いで「裸眼視力1.0未満の者」、「鼻・副鼻腔疾患」、小学校では「裸眼視力1.0未満の者」、「鼻・副鼻腔疾患」となっている。中学校では、「鼻・副鼻腔疾患」、「眼の疾病・異常」、高等学校では、「裸眼視力1.0未満の者」、「鼻・副鼻腔疾患」が続いている。

表7 主な疾病・異常の被患率

順位	幼稚園		小学校		中学校		高等学校	
	検査項目	%	検査項目	%	検査項目	%	検査項目	%
1	むし歯(う歯)	31.9	むし歯(う歯)	49.7	むし歯(う歯)	35.0	むし歯(う歯)	51.0
2	裸眼視力 1.0未満の者	18.3	裸眼視力 1.0未満の者	26.7	鼻・ 副鼻腔疾患	10.7	裸眼視力 1.0未満の者	41.3
3	鼻・ 副鼻腔疾患	8.9	鼻・ 副鼻腔疾患	12.8	眼の 疾病・異常	6.4	鼻・ 副鼻腔疾患	6.1
4	歯列・咬合	3.2	眼の 疾病・異常	7.3	歯肉の状態	5.8	歯肉の状態	5.4
5	アトピー性 皮膚炎	3.2	耳疾患	5.5	歯列・咬合	5.5	歯垢の状態	5.1
6	眼の 疾病・異常	3.0	歯列・咬合	4.3	歯垢の状態	5.5	歯列・咬合	4.3
7	耳疾患	2.7	アトピー性 皮膚炎	3.7	せき柱・胸郭	4.3	蛋白検出の者	4.1
8	ぜん息	2.1	ぜん息	3.4	蛋白検出の者	4.1	眼の 疾病・異常	4.0
9	その他の皮膚疾 患	1.4	歯垢の状態	3.0	心電図異常	3.7	心電図異常	3.9
10	口腔咽喉頭疾 患・異常	1.4	歯肉の状態	2.5	ぜん息	3.6	耳疾患	2.5

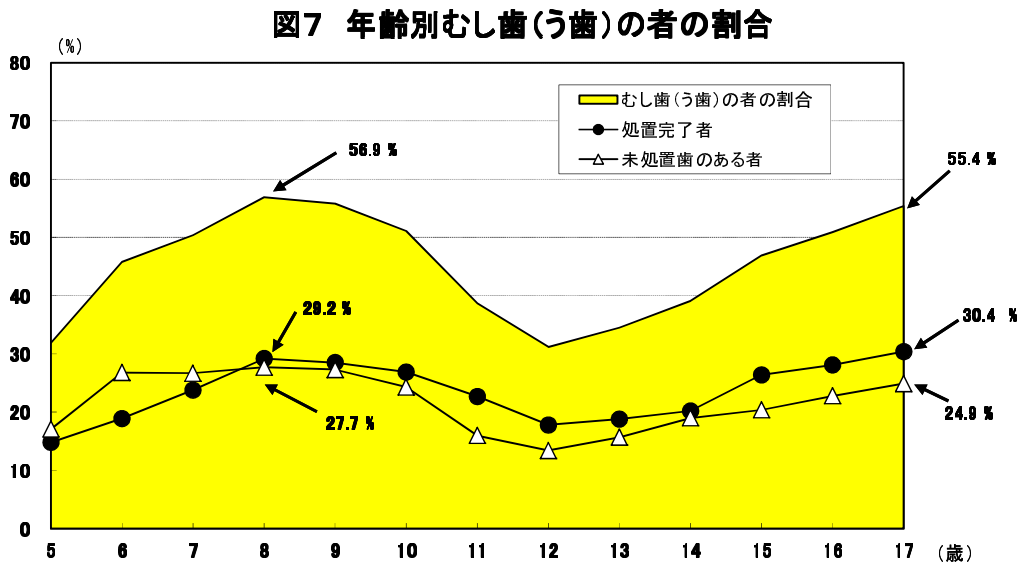
(注) 中学校の「裸眼視力1.0未満の者」は、裸眼視力検査が省略される等サンプル数が少ないため、又は、標準誤差が5%以上等のため、公表されていない。

2 主な疾病・異常の状況

(1) むし歯（う歯）年齢別 （図7. 統計表'第9表）

平成26年度の「むし歯（う歯）」の者の割合は、幼稚園が31.9%、小学校49.7%、中学校35.0%、高等学校51.0%となっている。

「むし歯（う歯）」の者の割合を年齢別にみると8歳が56.9%と最も高く、次いで9歳が55.8%になっており、17歳も55.4%と高い割合になっている。また、8歳以降は、処置完了者の割合が未処置歯のある者の割合を上回っている。



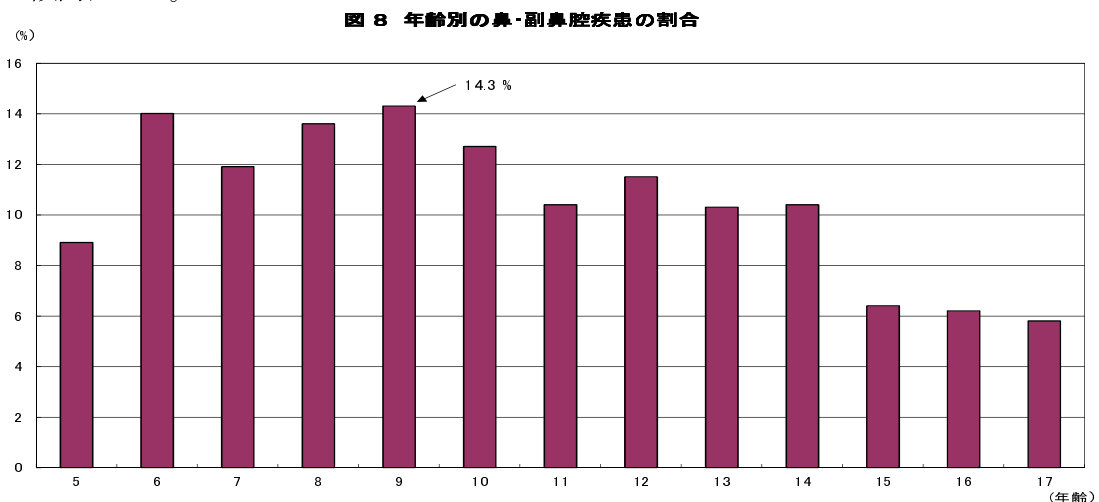
(2) 裸眼視力 1.0 未満の者 （統計表'第9表）

平成26年度の「裸眼視力 1.0 未満の者」の割合は、幼稚園で18.3%、小学校で26.7%、高等学校で41.3%となっている。

(3) 鼻・副鼻腔疾患 （図8. 統計表'第9表）

平成26年度の慢性副鼻腔炎（蓄膿症）、慢性的症状の鼻炎及び花粉症等の鼻・副鼻腔疾患は、幼稚園では8.9%、小学校12.8%、中学校10.7%、高等学校で6.1%となっている。

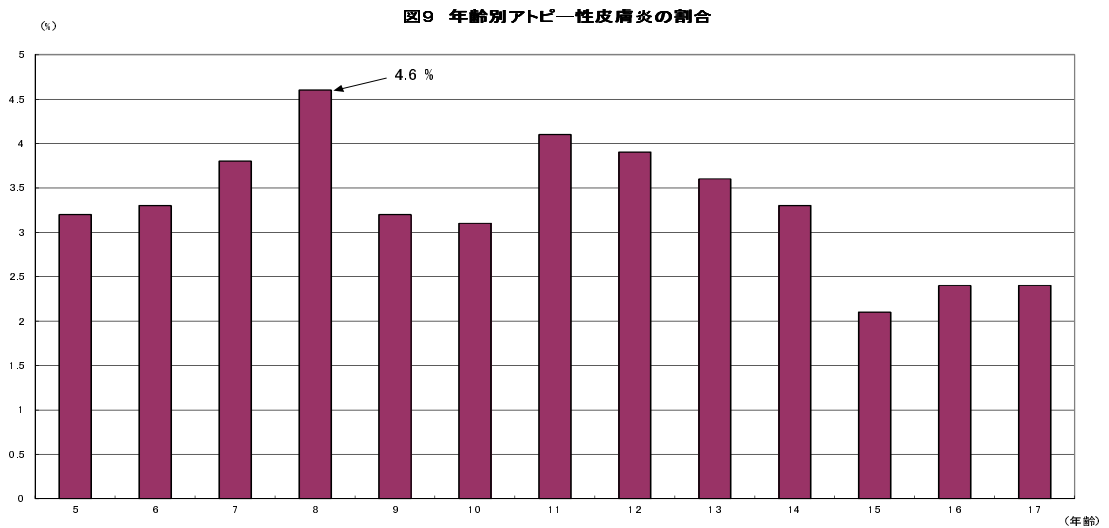
「鼻・副鼻腔疾患」の割合を年齢別で見ると、9歳が14.3%で最も高く、6歳～14歳で高い傾向にある。



(4) アトピー性皮膚炎 (図9, 統計表'第9表)

平成26年度の「アトピー性皮膚炎」の割合は、幼稚園では3.2%、小学校3.7%、中学校3.6%、高等学校で2.3%となっている。

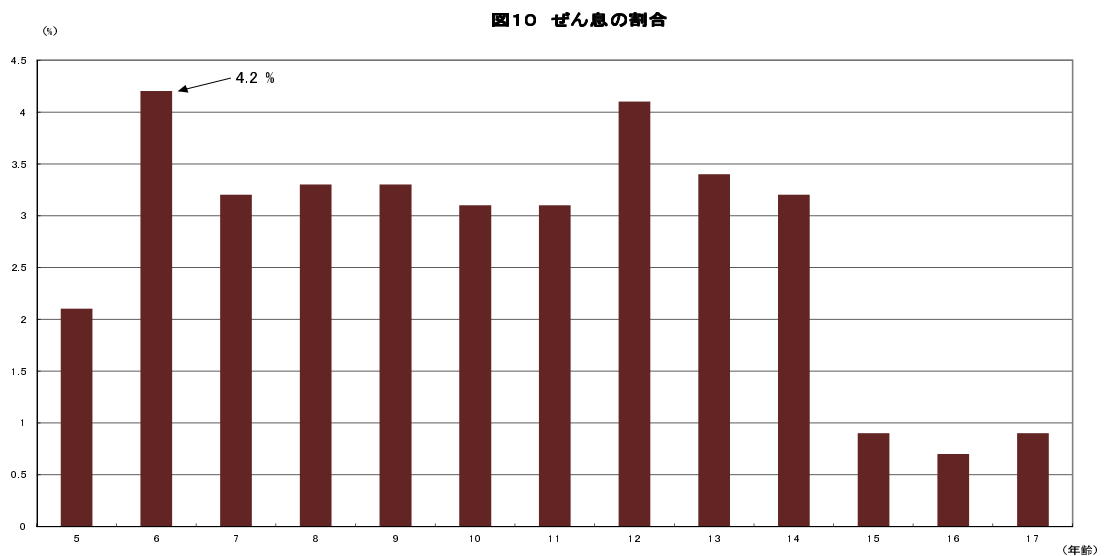
「アトピー性皮膚炎」の割合を年齢別にみると、5歳から年齢が上がるとともに高くなり、8歳が4.6%と最も高く、15歳以降は2.5%未満に低下している。



(5) ぜん息 (図10, 統計表'第9表)

平成26年度の「ぜん息」の割合は、幼稚園では2.1%、小学校3.4%、中学校3.6%、高等学校で0.8%となっている。

「ぜん息」の割合を年齢別にみると、6歳が4.2%と最も高く、15歳以降は1.0%未満に低下している。



3 主な疾病・異常の推移 (表8)

疾病・異常等の主なものについて、平成22年度から26年度までの推移をみると次のとおりである。むし歯(う歯)については、全学校段階において低下傾向にある。

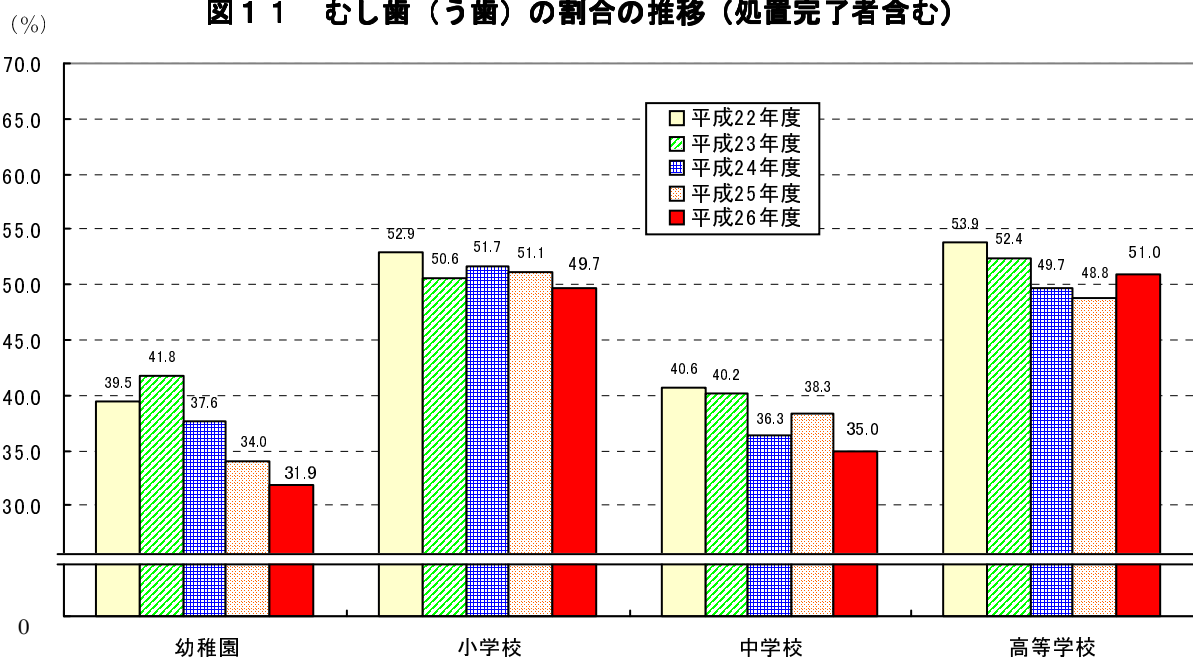
表8 主な疾病・異常等の推移 (単位：%)

検査項目	幼稚園					小学校					中学校					高等学校				
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
むし歯(う歯)	39.5	41.8	37.6	34.0	31.9	52.9	50.6	51.7	51.1	49.7	40.6	40.2	36.3	38.3	35.0	53.9	52.4	49.7	48.8	51.0
裸眼視力1.0未満の者	X	X	X	X	18.3	27.7	26.7	27.9	27.7	26.7	36.4	X	51.2	X	X	X	X	53.1	62.3	41.3
鼻・副鼻腔疾患	4.8	5.5	4.8	7.0	8.9	11.4	12.4	12.2	14.0	12.8	8.5	8.0	9.8	9.3	10.7	6.3	9.4	8.4	9.5	6.1
眼の疾病・異常	1.3	0.9	2.3	5.5	3.0	5.1	6.1	6.4	6.7	7.3	5.8	5.4	5.8	4.5	6.4	5.8	4.3	3.6	4.0	4.0
耳疾患	1.9	2.9	4.3	11.0	2.7	3.8	4.7	4.6	4.5	5.5	2.7	3.5	3.1	3.0	2.6	1.6	1.6	1.4	2.2	2.5
ぜん息	2.3	3.0	1.3	3.3	2.1	3.5	3.7	3.3	3.2	3.4	1.5	1.7	2.6	2.2	3.6	1.8	1.2	1.1	1.2	0.8
歯列・咬合	2.2	1.0	1.6	1.9	3.2	3.3	2.6	3.5	4.6	4.3	3.7	4.1	4.7	6.4	5.5	4.1	5.8	3.6	4.7	4.3
心電図異常	2.9	2.9	2.3	2.5	1.7	3.1	3.5	3.0	3.5	3.7	2.1	3.7	3.7	2.9	3.9
アトピー性皮膚炎	3.4	3.1	3.5	3.7	3.2	3.8	3.6	3.9	2.9	3.7	3.2	2.6	3.1	3.2	3.6	3.0	2.8	1.5	2.3	2.3
蛋白検出の者	0.8	-	0.0	0.2	0.2	0.9	0.7	0.7	0.9	0.9	3.4	3.1	3.8	3.2	4.1	3.1	2.5	2.6	3.2	4.1
歯肉の状態	-	0.1	-	0.0	-	2.3	1.2	1.6	2.6	2.5	3.6	4.3	4.6	4.5	5.8	6.4	5.4	4.2	5.7	5.4
歯垢の状態	-	0.4	0.1	0.7	0.3	3.6	1.6	2.2	3.9	3.0	3.8	4.2	6.0	5.3	5.5	6.7	5.7	5.0	7.4	5.1
その他の皮膚疾患	1.5	0.7	1.6	0.8	1.4	0.6	0.7	0.6	0.6	0.8	0.5	0.1	0.4	0.2	0.2	0.2	0.3	0.2	0.2	0.2
口腔咽喉頭疾患・異常	0.9	7.1	0.9	1.9	1.4	0.8	1.6	1.2	1.3	0.6	0.4	0.8	0.6	0.6	0.4	0.1	0.3	0.3	0.3	0.2

むし歯(う歯)時系列 (図11, 表8)

平成26年度の「むし歯(う歯)」の者の割合は、高等学校を除く学校段階において前年度を下回っている。平成22年度以降の推移をみると、「むし歯(う歯)」の者の割合は、いずれの学校段階においても減少傾向にある。

図11 むし歯(う歯)の割合の推移(処置完了者含む)



Ⅲ 全国値との比較

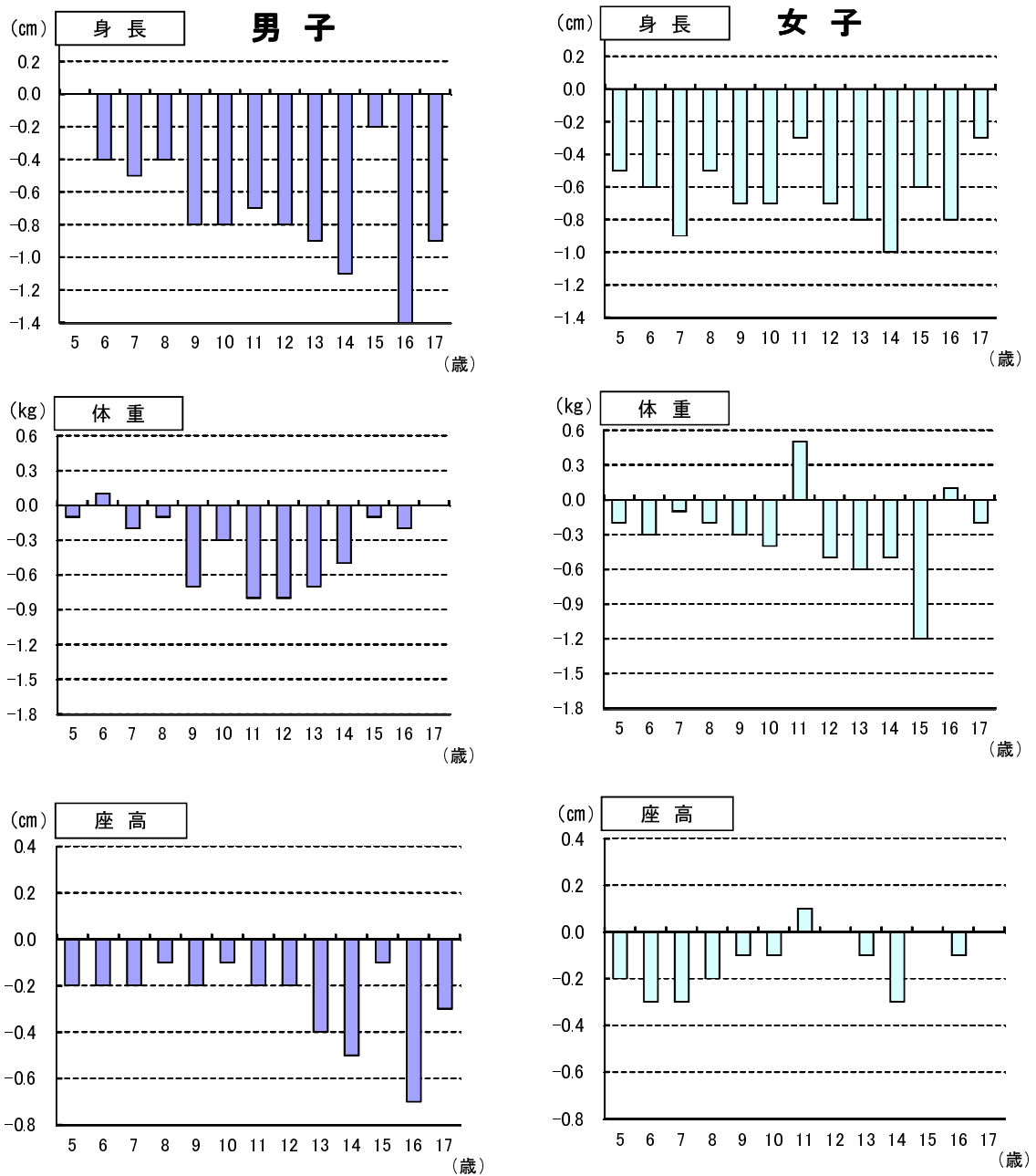
1 発育状態

(1) 全国平均体格との差 (図12)

平成26年度の広島県平均値と全国平均値を比較してみると、次のとおりである。
全体的に全国平均値を下回る傾向にある。

図12 男女別、年齢別体格の全国平均値との差

(全国平均値=0.0)



(2) 総発育量の全国平均値との比較 (表9)

総発育量をみると、男子では身長 59.2cm、体重 43.5kg、座高 29.2cm であり、全国平均値より体重は 0.1 kg 上回っているが、身長は 0.7cm 及び座高は 0.7cm 下回っている。

女子の総発育量は、身長 47.7cm、体重 33.9kg、座高 23.8cm であり、全国平均値より身長は 0.2cm、体重は 0.1 kg、座高は 0.4 cm 下回っている。

表9 男女別、総発育量の全国平均値との比較

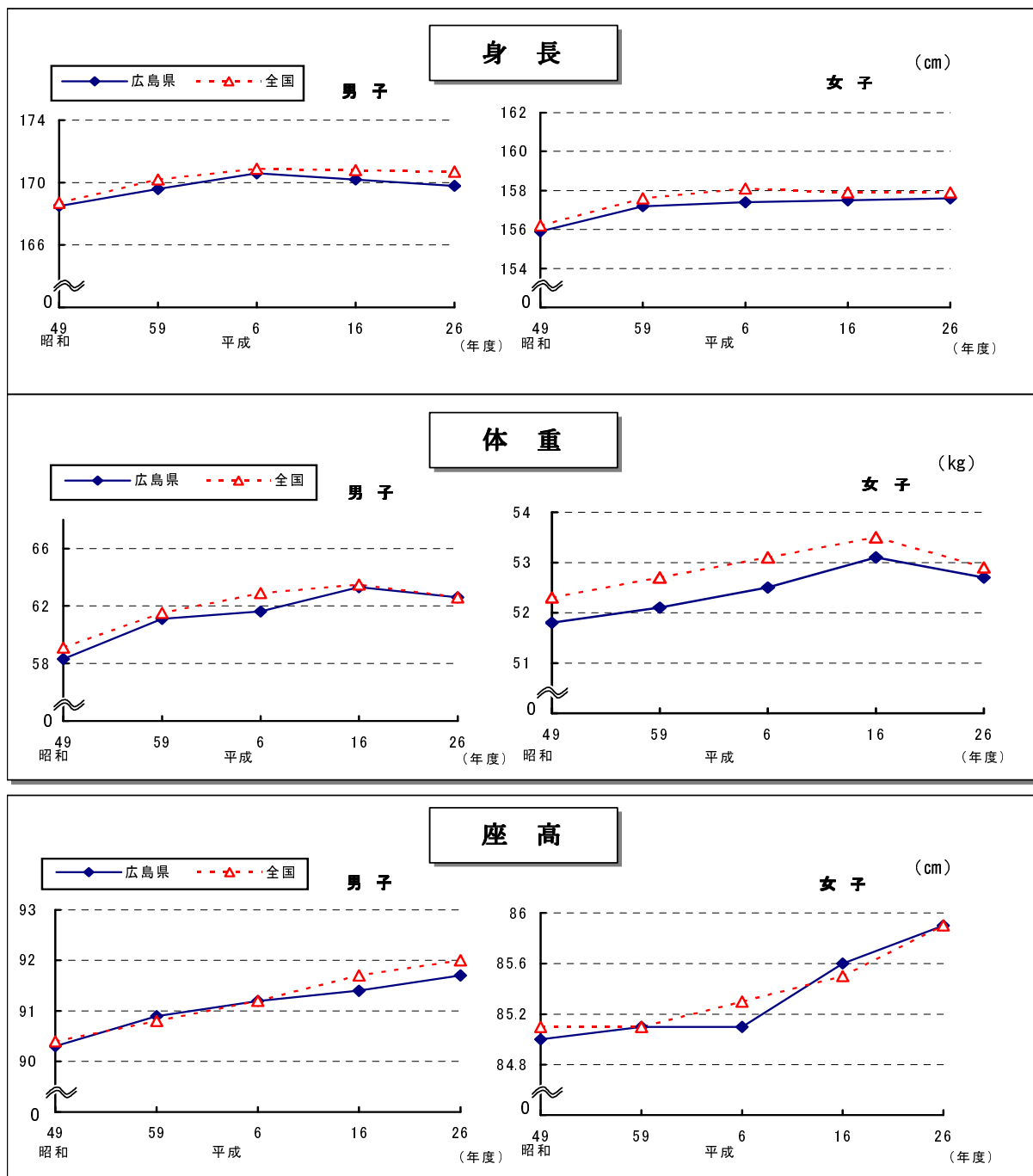
広島県・全国		男子(平成8年度生まれ)			女子(平成8年度生まれ)		
		5歳時の体格 (平成14年度)	17歳時の体格 (平成26年度)	総発育量 B-A	5歳時の体格 (平成14年度)	17歳時の体格 (平成26年度)	総発育量 B-A
		A	B		A	B	
身長 cm	広島県	110.6	169.8	59.2	109.9	157.6	47.7
	全国	110.8	170.7	59.9	110.0	157.9	47.9
体重 kg	広島県	19.1	62.6	43.5	18.8	52.7	33.9
	全国	19.2	62.6	43.4	18.9	52.9	34.0
座高 cm	広島県	62.5	91.7	29.2	62.1	85.9	23.8
	全国	62.1	92.0	29.9	61.7	85.9	24.2

(注) 総発育量とは、平成 26 年度の 17 歳（調査対象の最高年齢）の体格から、12 年前（平成 14 年度）の 5 歳（調査対象の最小年齢で現在の 17 歳）の体格を差し引いた数値である。

(3) 17歳男女平均値の推移 (図13)

17歳男女における身長、体重、座高(平均値)の推移を昭和49年から10年ごとにみると、昭和59年の男子及び平成16年の女子の座高が全国平均値を上回っている以外は、身長、体重及び座高のすべてにおいて、全国平均値を下回るか、あるいは同値で推移している。

図13 17歳男女平均値の推移



(4) 肥満傾向児・痩身傾向児の全国出現率との比較

ア 肥満傾向児 (図14, 図15)

肥満傾向児について、年齢別に全国の出現率と比較してみると、男子については、全国を上回る傾向にあるが、11歳～15歳は下回る傾向にある。

女子については、11歳を除き、全国を下回る傾向にあり、特に15歳以降において特にその傾向が見られる。

図14 年齢別肥満傾向児の全国出現率との比較 (男子)

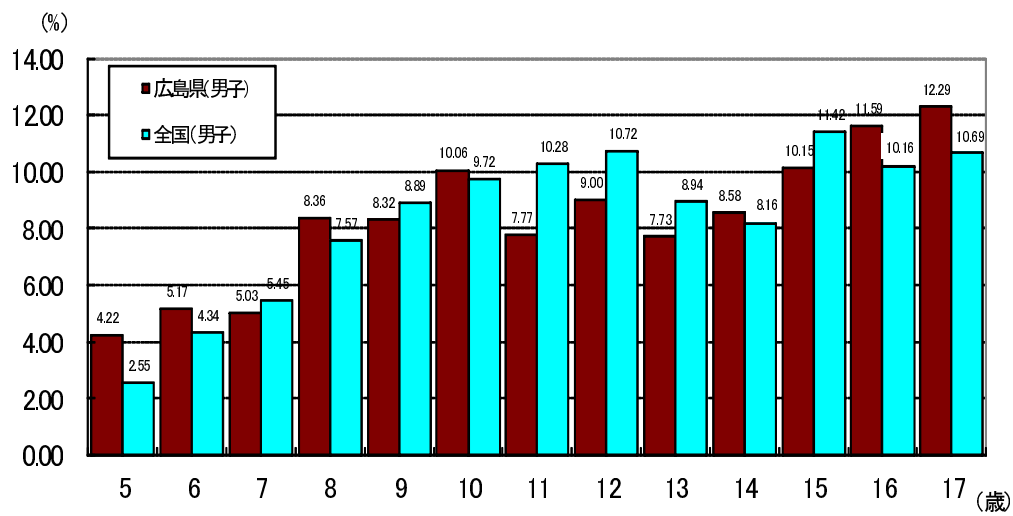
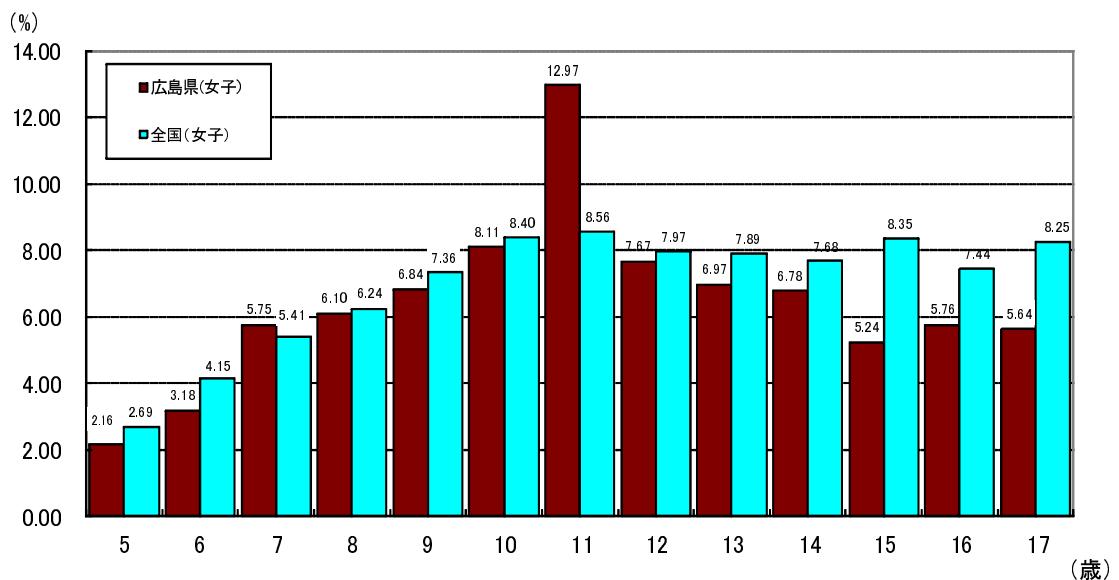


図15 年齢別肥満傾向児の全国出現率との比較 (女子)



イ 痩身傾向児 (図16, 図17)

痩身傾向児について、年齢別に全国の出現率と比較してみると、男子については広島県、全国ともに9歳以降において高くなっている。

女子については、14歳以降において全国を下回っている。

図16 年齢別痩身傾向児の全国出現率との比較 (男子)

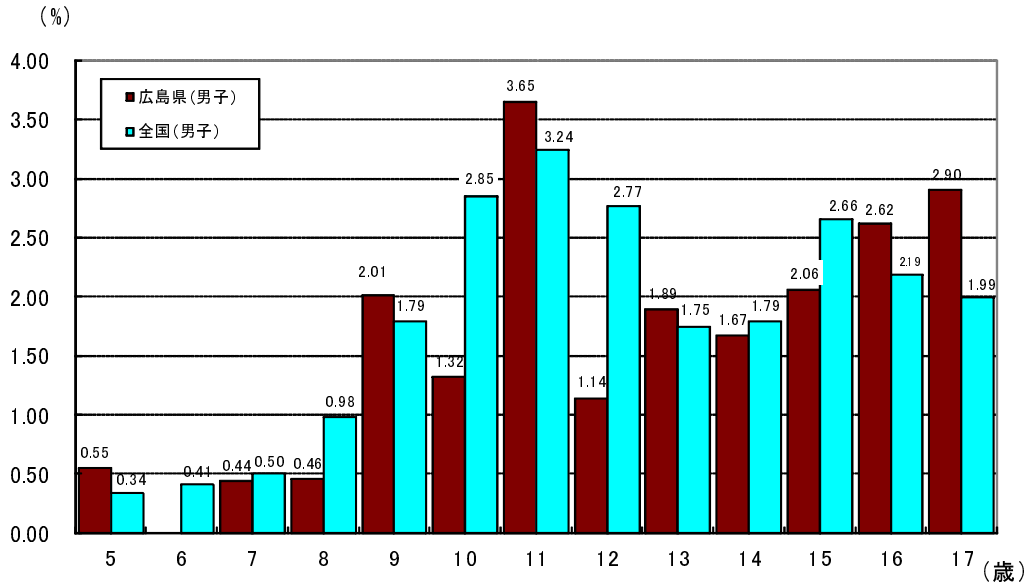
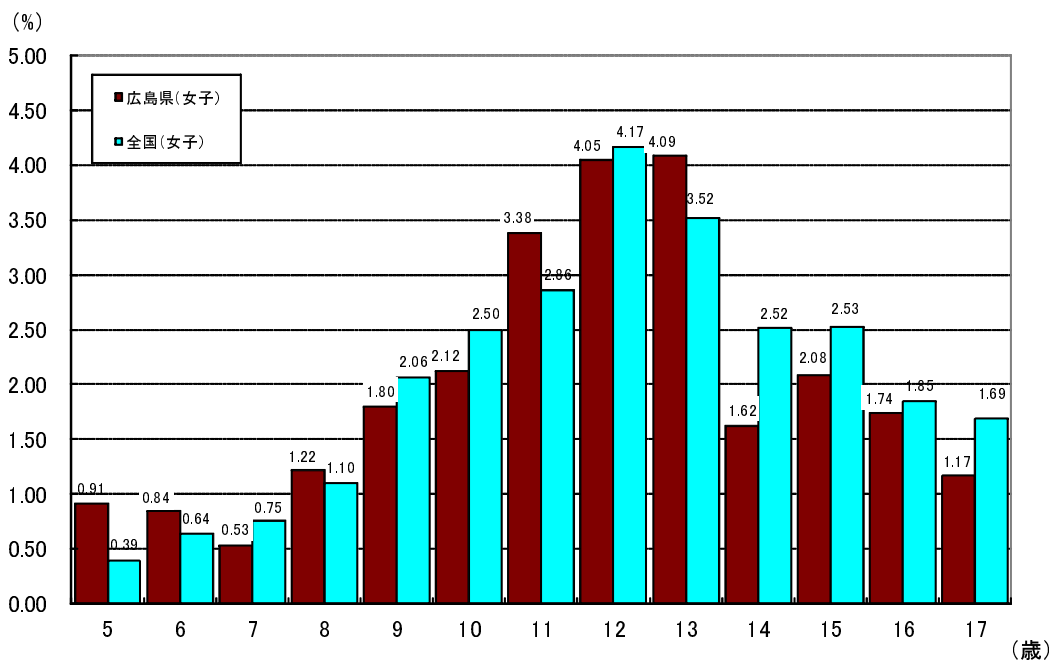


図17 年齢別痩身傾向児の全国出現率との比較 (女子)



2 健康状態 (図18, 図19, 図20, 図21, 図22)

主な疾病・異常の被患率について、全国と比較してみると「むし歯(う歯)」の者の割合は、全ての学校段階において全国を下回っており、特に中学校においては7.4ポイントと、大きく下回っている。

「裸眼視力 1.0 未満の者」の割合は、公表されている幼稚園、小学校及び高等学校の学校段階で全国を下回っている。

「鼻・副鼻腔疾患」の被患率は、中学校及び高等学校の学校段階で全国を下回っている。

「アトピー性皮膚炎」の被患率は、全ての学校段階で全国を上回っている。

「ぜん息」の被患率は、小学校及び高等学校の学校段階において全国を下回っている。

図18 むし歯(う歯)の者の割合 (全国との比較)

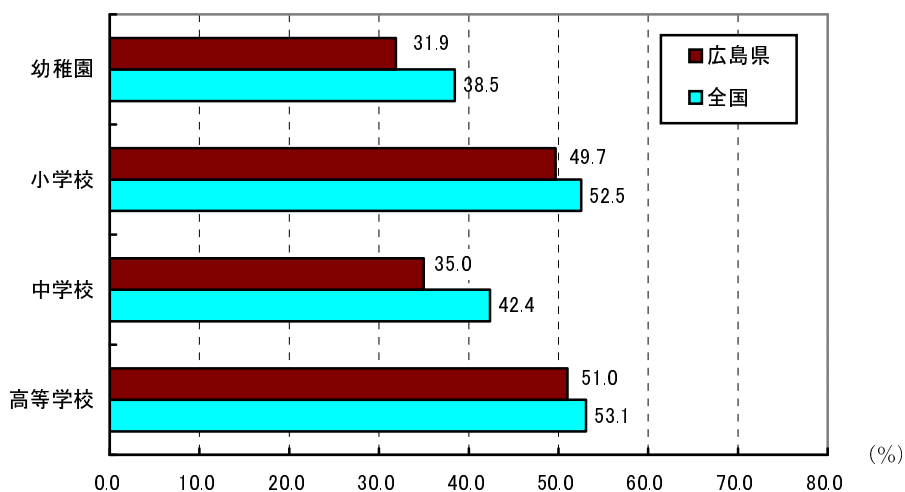
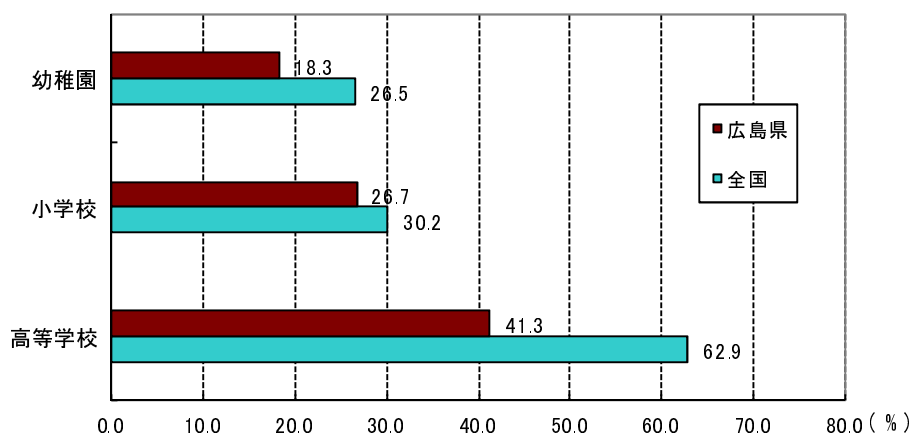


図19 裸眼視力 1.0 未満の者の割合 (全国との比較)



(注) 中学校の「裸眼視力 1.0 未満の者」は、裸眼視力検査が省略される等サンプル数が少ないため、又は、標準誤差が5%以上等のため、公表されていない。

図20 鼻・副鼻腔疾患の被患率 (全国との比較)

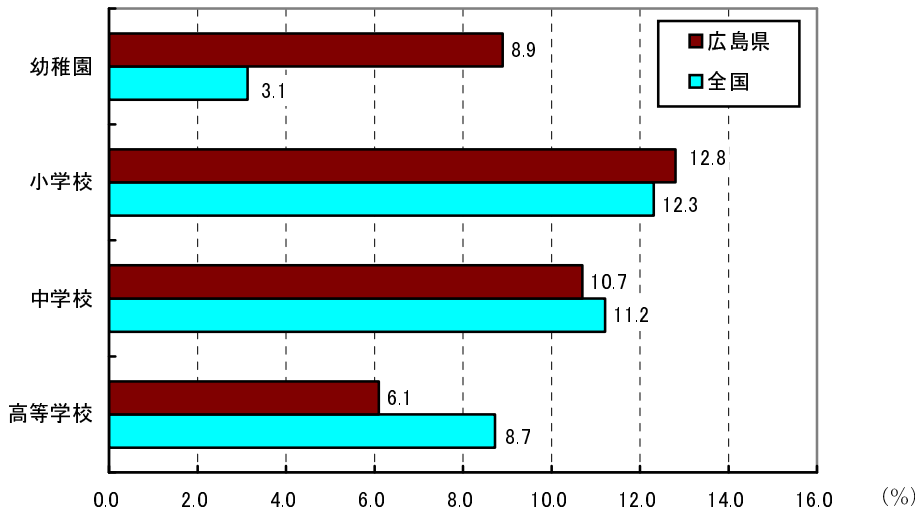


図21 アトピー性皮膚炎の被患率 (全国との比較)

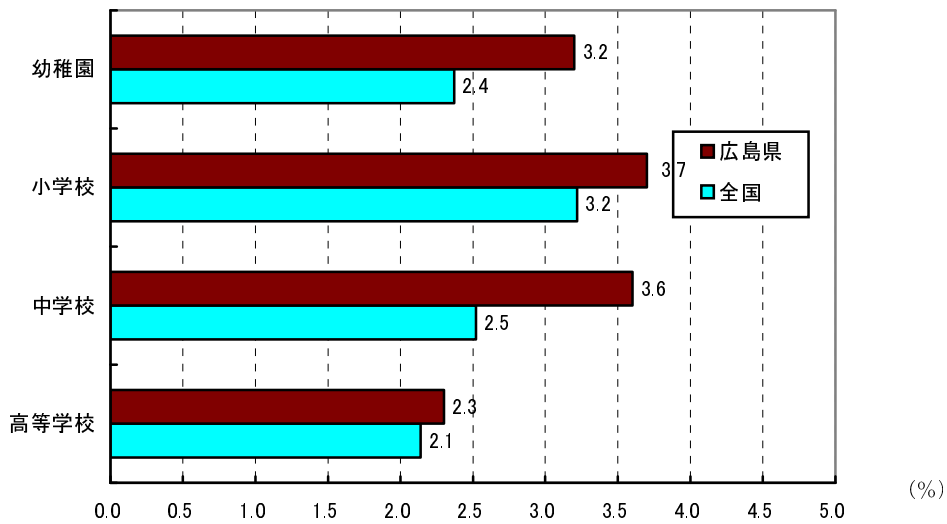


図22 ぜん息の被患率 (全国との比較)

